様式第３号（第８条関係）

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
井上教頭	１　開会のことば
青木校長	２　あいさつ
	３　委嘱状交付
参会者	４　自己紹介
	５　校内一巡
福田会長	６　会長・副会長選出 会長あいさつ 昭和４５年に自分自身が生徒として在校していた時には、全校体操や体育館での活動が印象に残っていますが、現在、変わったもの、変わらないものが、それぞれあります。学校だよりの「あかまつ」には「伝統」について書かれています。新しいものだけでなくそのような伝統を大切にし、今を生きる子供たちを育てていきたいと思います。
青木校長	７　協議 （１）令和８年度学校経営方針 グランドデザインを基に、今年度の学校経営方針を説明します。学校教育目標、校訓については継続して取り組んでまいります。目指す学校像は「夢や希望を育み信頼される学校」とし、その中に４つの柱を設定しました。この柱は、昭和３９年に制定、平成２２年に改訂された「新　伝統に生きる」を基にしています。研究課題は「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導法の工夫・改善」とし、令和８・９年で加須市教育委員会から研究委嘱を受けています。不登校対策や教職員の働き方改革など、今日的な課題もたくさんありますが、解決に向けて取り組んでまいります。
福田会長	（２）協議の柱について これから今回の協議の柱を決めてまいりたいと思います。昨年度の協議内容と併せて、先ほど青木校長からの説明にありました、加須西中学校の学校課題解決を目指すことができるような取組を、委員の皆さんと協議したいと思います。「保護者や地域と連携協働し、働き方改革や不登校などの学校課題を解決していくことで、夢や希望を育む学校」を柱として、どのような取組が考えられるのかを協議していくのはいかがでしょう。事務局の先生から説明があります。
荻島主幹	協議について、次のような流れで進行します。①ホワイトボードを

	使用し、課題を解決するための取組案を記入する。②一人ずつ発表をする。③取組案の方向性を決める。 取組を考える際には、働き方改革についての資料や不登校の定義、昨年度の本校の不登校生徒数、さわやか相談室・SSR（スペシャルサポートルーム）・教育活動補助員の運用等を参考にしてください。
内田委員	不登校対策としては、学校や学級に居場所がある、居場所をつくることが大切だと考えます。自分が教室の中に存在しているのだと感じられることで、学校に緊張せずに行くことができます。また、授業の内容がわかるということも重要です。
武正委員	先ほど、校長先生の説明の中にもあったように、働き方改革を進めることで、生徒と向き合う時間が確保されると考えます。生徒と向き合う時間を確実に設定することが不登校を減らすことにもつながるのではないでしょうか。また、相談しやすい雰囲気、相談できる時間と場の確保が大切だと思います。さらに、情報共有の強化も重要です。中学校には、さわやか相談員やスクールカウンセラーも勤務しますので、先生方だけでなく様々なスタッフと情報共有をしておく必要があります。また、個々のケースに合わせた対応を行い、先生方と保護者の連携も強めておかなければなりません。
齋藤委員	生徒のよさを認め、変容させていく教員や教育が大切だと考えます。学校行事だけでなく、地域行事や幼・小・中での交流など様々な活動を通して子供たちの心を開き、様々な人と関わりを持つことが今の子供たちには必要なのではないでしょうか。
町田委員	不登校問題については、保護者への働き掛けが重要だと考えます。学校、行政、地域それぞれからのアプローチがあります。地域で何ができるかと考えたときに、地域行事などに参加してもらい、関わりを作っていくことできると思います。例えば、１８時以降及び土日祝日は、家庭・地域で子供たちを育てるというような意識が必要です。働き方改革については、教材研究の時間をコマに組み込むなどして確保し、わかる授業のためにも授業準備を進めてほしいです。教科担当で共同して行うなどの工夫も考えられます。

矢嶋委員	前回の会議で話し合いましたが、夢や希望を育む生徒を育てることが大切だと考えます。夢や希望を持てるようになる生徒が増えると不登校減少にもつながるのではないでしょうか。まず、本気で生徒にとことん向き合い、生徒理解に努める。個々に課題が違うので、人間関係に悩んでいるのか、家庭なのか、文化の違いなのかなど、しっかり把握し情報を共有していくことが必要です。その情報の中から、SSR につなげるのか、SC なのか、SSW なのかなど、誰が何をどこまで対応できるのかをチームで検討する必要があると思います。
松村副会長	西中のシンボルでもある「アカマツ林」を有効に活用するといいと思います。自然とふれ合ったり汗をかいたりしていく中で、子供たちはのびのび育ち、不登校も減少するのではないでしょうか。あかまつ杯などを企画してみるのもいいかもしれません。また、近年は外国籍の生徒が多いと聞きました。日本のよさを知ってもらう機会を作ったり、楽しく学べる日本語講座などを行ったりすることも必要になってくると思います。
福田会長	不登校対応に取り組むには、学校と地域でそれぞれのかかわりがあると思います。すでに関わりや取組をそれぞれ実施していますが、特に感じるのが、不登校児童生徒をもつ親の孤立が課題だと感じています。親や家族のみで抱え込んでしまい、どこにも相談できない、吐き出すことができないのが現状ではないでしょうか。そこで重要となるのが、情報共有です。担任の先生が親と連絡をとりますが、担任一人ではうまくいかないことも多いです。そこで、SC や SSW、さわやか相談員、関係機関と連携して情報共有をしながら保護者の孤立を防ぎます。地域では、自治会や民生児童委員が中心となって家庭の状況や子供の様子を把握し、学校と共有することもできると思います。
荻島主幹	これまでの話合いの中から、ここにいらっしゃる委員の皆さんのお考えをまとめると、「生徒と向き合う」「生徒のよさを認める」「情報の共有」「親の孤立を防ぐ」を柱として具体的な取組を行っていくことになりました。
福田会長	このような形で、今後の学校運営協議会を進めてまいりたいと思いますが、御承認いただける方は拍手をお願いします。

各委員	拍手多数
福田会長	以上で協議を終了します。ここで、司会を事務局にお返しします。
井上教頭	活発な協議をしていただき、ありがとうございました。
	８　諸連絡
井上教頭	昨年度の学校運営協議会において、話し合う機会を増やすのはどうかという御意見をいただきました。今年度予定されている学校行事において委員の皆様には案内を発出させていただきますが、その際に話し合う機会を設けさせていただきたいと考えていますので、よろしくお願いします。 また、次回の学校運営協議会についての連絡と、報償費等の連絡について連絡します。
	謝辞
青木校長	本日はお忙しい中、本校にお集まりいただき、ありがとうございました。また、活発に御意見を出していただき、協議が大変深まりました。皆さんの御意見を基にし、今後の学校経営を進めてまいります。
井上教頭	以上をもちまして、令和８年度加須市立加須西中学校第１回学校運営協議会を終了致します。御協力ありがとうございました。

会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和８年５月２５日

署名　教頭　井上　泰則